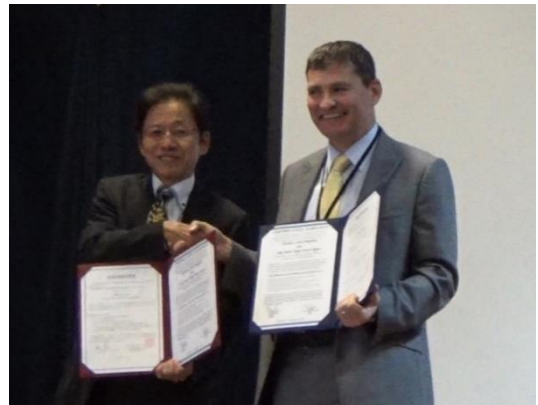


「イギリス海外研修」報告（速報版）

- ①SGH 事業・海外交流支援事業： 姉妹校提携及び交流
- ②目的： ロンドン市ヘイドン校を訪問し、姉妹校提携及び現地の高校生と交流
～コミュニケーション能力の育成を図るとともに、異国の歴史・文化及び習慣等を学び、異文化理解を深め、グローバルな視野を身に付ける～
- ③期間： 平成27年10月6日(火)～10月12日(月)

ヘイドン校を訪問し、姉妹校提携 (partner-schools) の調印式及び相互交流を行いました！

- 10月8日(木)、生徒30名が学校長及び引率教員とヘイドン校を訪問し、関高校とヘイドン校との間に姉妹校提携(partner-schools)が結ばれました。ヘイドン校ジョーンズ校長先生が「今日が姉妹校としてのスタートであり、今後さらなる密接な関係を築いていくために、両校がともに力を合わせていきたい」と力強く語られ、関高校加藤校長からは、「多文化共生が求められ、世界には解決しなければならない問題が多くある中、この提携によって両校の生徒がお互いの知恵を寄せ合い協力合って、将来、世界のリーダーとして活躍してほしい。」と話されました。



- 2時間目は12・13年生(17歳～18歳)とともに「政治学」の授業を受けました。イギリスの政治について基本的事項を学んだ後、「**選挙権年齢はさらに引き下げられるべきか。**」というピックを与えられて、両校の生徒全員でディベートが行われました。「選挙年齢を引き下げること、政治に関心を持つ年齢が引き下げられるのでよい」という賛成派に対し、「選挙年齢が低いと正しい判断ができない」という反対派の意見との間で活発な話し合いとなりました。本校生徒たちもヘイドン校の生徒たちとグループになって、積極的に意見を交換していました。自分たちと同じぐらいの年齢の生徒たちと話し合うことで、現在の社会的問題への思いを共有できました。

- 3時間目はヘイドン校10・11年生(15歳～16歳)とペアになり、それぞれのペアの授業に参加しました。本校の生徒たちはどの教室でも温かく迎えられ、生物、物理、英語、家庭科など英語で行われる授業で必死に学びました。その後は、ペアの生徒たちと話をしながらカフェテリアでランチをし、昼休みには芝生グラウンドで散歩をしたり、サッカーをしたりしました。サッカーでは国籍や



年齢に関係なく、一つのボールを追いかけながら笑い合うことができ、貴重な時間となりました。

- 5 時間目には交流パーティを開き、お世話になったお礼に日本文化を紹介しました。



- 用意したコーナーは「日本のおもちゃ」・「折り紙」・「浴衣試着」・「郡上踊り」・「書道」です。どのコーナーもたくさんの方で賑わいました。“*I’d like to try calligraphy!*” と近づいてくるヘイドン校生に、“*Sure! Have you ever tried this?*” と流ちょうな英語で説明する本校生徒たち。ヘイドン校の先生方や生徒たちは初めて日本文化を体験でき、大変喜んでいただけました。



- 合唱「故郷」には、拍手喝采。最後の別れは名残惜しく、“*I love Japan! I’ll go to Japan some day!*” “*Please come back again!*” “*Yeah, I will!*” と互いに交流を継続する約束をしました。熱烈な歓迎を受け、「心温かく、英語も立派に話せる素晴らしい生徒たち」と先生方からはお褒めの言葉をいただきました。英語・イギリスの文化や歴史・主権者教育など、事前研修で学んだことを存分に生かした交流となり、多くのことを学んで体験でき、新たな絆が生まれた有意義な1日となりました。今後は交流をさらに深め、その様子や成果の報告を順次行っていく予定です。

